

「富岡製糸場と絹産業遺産群」およびその関連施設における 展示内容の調査と教育教材としての利用提案

－ 田島弥平旧宅を中心に－

埼玉県立秩父農工科学高校教諭 栗原 正博

本研究では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の4つの資産・4つの関連施設・セカイトにおける展示内容およびそれらの連携について調査した。また、資産間をつなぐ地域資源を活かした新しい展示内容および教育教材として利用できる展示内容について田島弥平旧宅を中心に考察した。

1. はじめに

(1) 研究の背景と本研究の位置づけ

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴の4つの資産から構成されている。それらの資産は、世界遺産登録における「顕著な普遍的価値の評価基準」の基準(ii)および(iv)に当てはまり、国際交流・技術革新について高く評価された(1)。世界遺産登録の背景にはこれら各資産間の連携も影響を与えている。また、群馬県の養蚕には地理的な背景が大きく関わっており、それに伴う桑園の発達や鉄道開通が多大な影響を与えた。世界遺産登録後、各資産への来場者は145万人を超えたが、2022年には34万人まで減少している。群馬県では「ぐんま絹遺産」および「日本遺産『かかあ天下－ぐんまの絹物語－』」の登録を行っているが、その効果が出ているとは言い難く、新規来場者の獲得および来場者の再訪を促す仕組みづくりが課題となっている。さらに、伊勢崎市内の小学校では、社会科の授業で扱う田島弥平旧宅について、全ての小学校が現地見学しているわけではなく(2)、教育現場で十分な活用がなされていない現状がある。こうした世界遺産登録後の状況に対して、丸山(2019)は、持続可能な観光の実現には、住民の精神の自立および感動や課題を観光客と共有することが不可欠であると述べており、地域住民を巻き込んだ運営が重要になると考えられる。

地域という視点では、陣内(2016)が各資産の遺物だけではなく、それらを取り巻く地域、テリトリーオについてもその重要性を述べている(3)。テリトリーオに含まれる資産の再評価は、価値を引き上げるだけでなく、地域活性化を促し、持続的な資産維持を可能にしていることを指摘している。これは田園・農村での文化や歴史、生活等を遺物と一体として扱う重要性を示している。テリトリーオは交通網で互いに繋がりが、よく似た自然条件や社会的性格を持つ独自の経済文化圏として大きなテリトリーオを形成することが指摘されているが、「富岡製糸場と絹産業遺産群」についても同様の可能性がある。①資産がどのような目的・条件で指定され、②そうした条件に基づく指定であったからこそ、それらの資産が、絹産業の象徴である桑園や繭の輸送手段であった鉄道などどのような関連を持っていたか?といった、地域的な特徴について、これまでの世界遺産関連施設の展示が必ずしも十分伝えてきたとは言い切れない。

これらの既往研究が指摘するように、世界遺産が地域で「持続的に」存在し続けるには、観光客のみならず地域住民や教育現場での世界遺産及び地域への理解を深める必要がある。そのために利用する住民に正確に情報提供できる展示が課題であり、世界遺産登録時の展示内容を検証し、さらに充実させる必要性が高まっている。特に、世界遺産として登録された建築や物事、ことがらを生み、育み、営んだ「後背地」としての地域・ランドスケープについての理解が必要不可欠である。現段階では世界遺産と、それを補うように指定された地域特性、「ぐんま絹遺産」および「日本遺産『かかあ天下－ぐんまの絹物語－』」との連携が十分と

れていない状況にあると筆者は考える。

以上から本論では「富岡製糸場と絹産業遺産群」の展示内容に着目し、各資産および関連施設の①世界遺産認定時の評価を把握した上で、②それぞれの展示内容およびぐんま絹遺産・日本遺産と関連する展示の現状を把握し、③世界遺産と「後背地」の地域資源との関係について理解が深まる展示の在り方を検討し、④資産に関連する地域資源を生かした教育教材に活用できる展示内容について検討することを目的とする。

(2) 研究対象

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産（富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴）と、それぞれの補助的展示施設（田島弥平旧宅案内所、高山社情報館、下仁田町歴史館）、さらに群馬県立世界遺産センター「セカイト」の4施設を調査対象とした（以下、特別な場合を除いて「資産」「施設」と示す）。

(3) 研究の方法

4資産と4施設について、①「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録の経緯（国際交流・技術革新に関する内容）を整理し、②敷地内にある屋内外の説明・解説パネルと実物展示の状況とその内容を調査した。一方、③世界遺産登録時に基準から外れた特徴的な内容（養蚕農家集落・桑園景観および流通に関する内容）についても調査した。それらを④各資産に共通の内容、⑤各資産特有の内容、⑥その他の特徴的な内容に分けて整理した。まずは①～⑤について展示の有無について調査し、⑥に関しては①～⑤に当てはまらない養蚕道具等の後背地に関する資源の展示内容を調査した。教育教材の考察については桑園・流通を例に田島弥平旧宅を中心に行った。

2. 世界遺産登録前、登録時の内容との比較

2007年のUNESCOによる暫定一覧表掲載時には、適用すべき評価基準としての「顕著な普遍的価値の評価基準」(ii)・(iv)に加えて、基準(v)養蚕農家集落・桑園景観が含まれており(1)、「富岡製糸場と絹産業遺産群 - 日本産業革命の原点 - 」というコンセプトの下、織物や流通に関する10資産で構成されていた(表-1)。世界遺産登録基準への該当性の1つとして基準(iv)では、養蚕農家集落景観について触れている。2007年には「富岡製糸場と絹産業遺産群」が文化庁に世界遺産候補として選定され、その時点の暫定一覧表内では「養蚕業を支える民家群とその原料の生産を支えた桑畑は産業の近代化とともに広く発展し、平地のみならず、山間傾斜地や河川敷にも展開して、地形に応じて独自の土地利用形態が進んだことを示す点で文化的景観の顕著な事例である」と記載されて

表-1 世界遺産推薦における構成要素(4)

	世界遺産登録前	登録時
種別	構成要素	構成要素
	荒船風穴	荒船風穴
養蚕	栢窪風穴	—
	高山社 発祥の地	高山社跡
	薄根の大クワ	—
	富沢家住宅	—
	赤岩地区 養蚕農家群	—
	—	田島弥平旧宅
製糸	旧甘楽社 小幡組倉庫	—
	旧富岡製糸場	富岡製糸場
流通	碓氷峠 鉄道施設	—
	旧上野鉄道 関連施設	—

いる。これは、地形を利用した桑園の分布およびその景観について述べたものであり、本資産の世界遺産登録検討において重要なポイントであったことを裏付けるものである。10資産のうち大クワは、養蚕信仰の象徴として、赤岩地区養蚕農家群は桑園とともに独自の地域景観を生み出したとしてエントリーされ、桑や桑園が養蚕の発展に欠かせない要素として遺産登録時に重視されていたことが読み取れる。

また、碓氷峠鉄道施設および旧上野鉄道関連施設は、群馬県の繭や生糸の大量輸送を可能にし、他鉄道との接続を利用しながら流通網を拡大して養蚕の発展に大きな影響を与えた重要な要素でもある。しかし、コンセプトの見直しから、生糸生産に関する基準(ii)・(iv)に絞り、基準(v)は除外された。その結果、2012年に、富岡製糸場、荒船風穴、高山社跡に新たに田島弥平旧宅を加えた4資産がUNESCOへ推薦され、一方、暫定一覧表に記載されていた養蚕に関わる栢窪風穴、薄根の大クワ、赤岩地区養蚕農家群の3資産、製糸に関わる旧甘楽社小幡組倉庫、流通に関わる碓氷峠鉄道施設、旧上野鉄道関連施設が対象外となった(表

- 1)。基準 (ii)・(iv) は「顕著な普遍的価値」を明確にする登録のために明治期以降の技術革新に寄与した資産のみを登録したもので、世界遺産登録のための戦略・資産の絞り込みは、技術革新の背景にある地域の特徴を表せているとは言い難い。「ぐんま絹遺産」、「日本遺産『かかあ天下-ぐんまの絹物語-』」はそれを補う形で登録されており、その一部に基準 (v) に関する養蚕農家集落・桑園景観および群馬県の養蚕を発展に導いた流通における鉄道が加わっている。

3. 世界遺産以外の関連する資源

(1) ぐんま絹遺産と日本遺産「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」

群馬県では県内各地に残る絹に関連する遺産を再評価し、保存活用を図るため2011年から「ぐんま絹遺産」の登録を行っている。2023年までに養蚕・製糸・織物・流通・教育・研究・企業支援に関わる文化財等が西毛・県央・東毛・利根吾妻の4つの地区に分けられ、102件登録された(表-2)。この中には「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産および日本遺産「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」の資源も含まれている。

日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、その認定が文化財指定との違いである。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

群馬県では、「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」と称し、絹産業に従事した女性の活躍のストーリーとして2015年に認定された。2023年時点での登録数は13である(表-2)。

(2) 日本・ぐんま絹遺産登録の必要性

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産としての価値は、前述のとおり、基準 (ii) 国際交流および (iv) 技術革新であるが、「評価基準」は登録のための「基準」にすぎないことから県内には他にも多様な絹遺産・絹文化が残されており、その普及啓発が課題となっていた。世界遺産登録の「顕著な普遍的価値の証明」では、その一部に「富岡とその集合体は、蚕の交配種や養蚕農家の換気装置、自動繰糸機の進歩、さらには農村の家族的生産者と巨大産業の間の連携などにより技術の世界規模での発展に貢献した。その結果、富岡は

表-2 各資産・施設における展示内容とぐんま絹遺産・日本遺産の地区別登録数

展示施設	展示内容	世界遺産登録時に評価された内容の評価項目			登録時に削除された項目		展示状況		後背地の資源	ぐんま絹遺産・日本遺産
		(国際交流基準Ⅱ)	(技術革新基準Ⅳ)	評価基準に沿った内容	流通に関する内容	桑園景観に関する内容	(各資産共通の内容)	各資産に関する内容		
富岡製糸場	東置繭所	×	◎	製糸技術	×		◎	◎	桑見本園	●0▲20■0
	西置繭所	1F大型展示場(南)	×	×	—	×	×	×		
		1F大型展示場(中)	◎	×	海外輸出	×	▽	×		
	2F	◎	×	フランスと日本の建築様式の融合	×		×	×		
	繰糸所	◎	◎	自動繰糸機によるオートメーション化	×	×	×	×		
	社宅	×	×	—	×	×	×	×		
高山社跡	高山社跡	×	◎	養蚕構造(清温育)	×	×	◎	×	養蚕道具	●3▲45■3
	高山社情報館	◎	×	養蚕教育	×	▽	×	◎	養蚕信仰、桑見本園、蚕種道具	
荒船風穴	荒船風穴(周辺施設含む)	×	◎	蚕種貯蔵	×	×	◎	×	—	●1▲22■6
	下仁田町歴史館	◎	×	海外との蚕種貯蔵取引	▽	×	◎	◎	養蚕信仰、蚕種・養蚕道具	
田島弥平旧宅	田島弥平旧宅	×	◎	養蚕構造(清涼育)	×	×	◎	×	養蚕道具	
	田島弥平旧宅案内所	◎	×	蚕種の海外輸販売	×	▽	◎	×	桑見本園	
	セカイト	◎	◎	該当しない	▽	×	◎	◎	ぐんま絹遺産 日本遺産	

◎展示有り：×展示無し：▽世界遺産登録時に削除されたが関係する内容が展示されている：◀世界遺産・価値の紹介・解説：▶ぐんま絹遺産・日本遺産の紹介・解説

●世界遺産
▲ぐんま絹遺産
■日本遺産
※数字は登録数

世界的なモデルとなった」とある。「農村の家族的生産者と巨大産業の間の連携」の背景には様々な資源の生産・活用、歴史・文化、ストーリーが関係する。世界遺産の「普遍的な価値」を、それを取り巻く地域の歴史や物事の関係性から認識することは、世界遺産のみならず群馬の養蚕の歴史を考える上でも非常に重要である。ぐんま絹遺産および日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」は、そのために必要であり、さらなる活用が求められる。

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財（文化遺産）の価値付けを行い、保護を担保することを目的としている。一方で日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで地域活性化を図ることを目的としている点に違いがある。また、ぐんま絹遺産によるネットワーク化は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」と各地に残る絹遺産の連携を推進し、絹遺産の保存と継承を図るとともに群馬県の地域振興、観光および文化的事業の新たな核にしようとするものである。いずれも各地に残る遺産や資源を「富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携させ、点を面として活用し、絹産業全体を盛り上げていくという趣旨である。

4. 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の展示内容

はじめに、各資産の展示状況を調査し、その実態を明らかにする。特に世界遺産登録時の基準（ii）国際交流および（iv）技術革新）と照らし合わせつつ、資産・施設の展示内容を調査し、後背地に関する基準（v）養蚕農家集落・桑園景観および流通に関する展示内容についても併せて調査する。展示状況は「各資産共通の内容（各資産の紹介）」および「各資産に関する内容」の2点から調査する。

（1）各資産の展示状況および内容の特徴

1）富岡製糸場

富岡製糸場内には東置繭所と西置繭所に2つの展示場が存在する。他の資産と比べて展示空間の面積が広く、展示品の点数も多い。東置繭所は大きく2つに区分され、①展示・売店、②売店を伴うフリースペースとして利用されている。展示内容は、富岡製糸場関連、養蚕・製糸関連、世界遺産群関連の3つに分類でき、①に集中して展示されている。世界遺産群の紹介ではパネル以外に建造物の構造模型を展示している。西置繭所は1階と2階に分かれ、2階は展示、1階は有料貸スペース、案内所・大パネル展示、展示に3分割されている。1階は製糸場内での暮らしや、富岡製糸場を引き継いだ片倉工業について、パネルや使用された機械等を用いて展示されている。案内所に併設された大パネルには、江戸時代から現在までの養蚕・製糸の変遷が示され、富岡製糸場と絹産業遺産群の歴史的な流れが示されている。2階では主に西置繭所の建築の構造が展示・説明されている。繰糸所には、昭和40～55年の間に設置された自動繰糸器が設置され、パネル展示により座繰り器、フランス式繰糸器、多条繰糸機、自動繰糸機を説明し、その違いを示している。社宅では、カイコの生態展示の他に、「暮らしのギャラリー」として、富岡製糸場に勤めていた社員の社宅の様子を再現している。

2）高山社跡および高山社情報館

高山社跡の展示は長屋門内と屋外に分けられる。調査時点（2023年8月）で母屋は改築中であり、展示は実施されていなかった。主な展示施設は長屋門であり、解説員による説明が主となる。長屋門では、当時の建物の写真や養蚕学校時代の卒業証書の展示など実物展示があったほか、養蚕道具が展示されていた。屋外では他資産の紹介および高山社2代目社長町田菊次郎が経営した高山社蚕業学校の当時の様子を伝えるパネルが展示されていた。高山社跡の展示空間は狭小なため、高山社情報館において、高山社蚕業学校に関する展示等が補足されている。また、養蚕信仰についての展示や蚕種道具なども展示されていた。

3) 荒船風穴および下仁田町歴史館

荒船風穴には室内展示施設はなく、屋外に案内板が複数設置されており、主に風穴および蚕種貯蔵施設の説明であった。近隣には荒船風穴冷風体験館もあり、展示説明がなされているが、荒船風穴の概要および他資産の一般的な紹介にとどまっている。

下仁田町歴史館は、下仁田町立の博物館として1981年開館した。下仁田町の歴史展示が基本であるが、荒船風穴の世界遺産登録に伴い、現在はそれに関係する展示も行い、荒船風穴の展示を補完している。その展示は、荒船風穴、春秋館（5）、蚕種・養蚕道具、養蚕信仰、下仁田の生糸の5つに分けられる。展示パネル、実物の展示物が多く、蚕種農家との取引内容や、荒船風穴の構造・歴史などがパネル展示され、その情報量は他の施設よりも多く、充実している。春秋館についての資料も閲覧可能で、蚕に卵を産み付けさせる種紙の流通についての展示があり、他資産との関わりが詳細に分かるのも大きな特徴になっている。

4) 田島弥平旧宅および田島弥平旧宅案内所

田島弥平旧宅では、敷地内の桑場内に展示スペースがあり、希望者は解説員によるモニターでの説明を聞くことができる。他資産と比べて展示パネル等は少なく、展示面積の半分を養蚕道具が占めていた。

田島弥平旧宅案内所の展示内容は、主に田島弥平旧宅が存在する伊勢崎市境島村に関係した人物について、他資産との関わり、利根川と集落の関係、海外輸出、宮中養蚕奉仕についてであった。

5) 群馬県立世界遺産センター「セカイト」

2020年に開設された群馬県立世界遺産センター「セカイト」（以下セカイトと呼ぶ）は上州富岡駅前に位置し、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の価値や魅力をわかりやすく紹介し、各資産への案内・誘導を目的に整備された施設である。繭の保管等に使用された倉庫群跡を利用し、1階と2階を展示スペースとして活用している。1階では構成資産が使用されていた当時の様子を再現した映像を大型スクリーンで上映している。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」での絹生産の流れと構成資産の役割、養蚕製糸技術の伝播など世界遺産認定の内容についても解説されている。2階では、各資産のそれぞれの特徴と相互関係が映像とパネルで展示されている。また、ぐんま絹遺産、日本遺産「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」についても展示され、広範囲における群馬の養蚕について理解することができる。

(2) 世界遺産登録時の評価基準から見た展示

各資産における展示内容を、世界遺産登録時の基準 (ii) 国際交流および (iv) 技術革新について整理した結果が表-2である。富岡製糸場は製糸技術・海外輸出・フランスと日本の建築様式の融合、高山社跡は養蚕構造（清温育）、高山社情報館では養蚕教育、荒船風穴は蚕種貯蔵、下仁田町歴史館では海外との蚕種貯蔵取引、田島弥平旧宅は養蚕構造（清涼育）、田島弥平旧宅案内所では蚕種の海外販売といった内容が展示されている。(ii) および (iv) に該当する内容を資産・施設どちらかで展示しており、相互補完していることがわかる。セカイトは (ii) (iv) を共に展示している。

(3) ぐんま絹遺産・日本遺産に関連する展示内容

各資産・施設では、ぐんま絹遺産および日本遺産と関係がある内容として養蚕信仰、蚕種・養蚕道具、桑見本園の展示を行っていた。高山社情報館および下仁田町歴史館では養蚕信仰・蚕種道具について、高山社跡、下仁田町歴史館、田島弥平旧宅ではそれぞれ養蚕道具が展示されていた。また、1資産2施設で桑の品種を紹介する見本園が整備されていた（表-2）。ここでは、ぐんま絹遺産および日本遺産と関係のある基準 (v) 養蚕農家集落・桑園景観および流通に関連する内容について述べる。なお、セカイトは、ぐんま絹遺産および日本遺産「かかあ天下－ぐんまの絹物語－」の資源そのものを紹介していたので、ここでは除外する。

1) 流通に関する展示

群馬県における養蚕・製糸業の発展には鉄道開通による流通が大きく関係していることが特徴であり、特に上野鉄道の開通は高崎市と富岡市、下仁田町を結び、たくさんの蚕種・養蚕関連施設が繋がることとなっ



た。蚕糸業は、蚕の卵である蚕種を蛾から採取する「蚕種業」、蚕種から孵化した蛹を繭になるまで飼育する「養蚕業」、繭から生糸を製造する「製糸業」からなる。4つの構成資産はこの過程において、良質な蚕種および繭を生産し、蚕種の貯蔵により年に一度しか行われなかった養蚕を複数回行うことを可能にして良質の繭を安定的に供給し、近代的な繰糸機を利用して良質な生糸の生産を行ったという1つの生産システムとして機能的に結びついている。これらを繋ぐ役割を果たしたのが鉄道であり、流通は必要不可欠であった。しかし、資産において流通に関する展示をしていたのは下仁田町歴史館のみ、施設ではセカイトがぐんま絹遺産の一部として展示しているのみであった。

2) 桑に関する展示

各資産において桑に関する展示は少なく、桑園分布についての展示はなかった。富岡製糸場と高山社情報館で一般的な養蚕の流れの一部で桑が紹介されていたものの、桑園分布などについては触れられていなかった。敷地内や近隣に桑園を作っていた資産は富岡製糸場のみで、施設は高山社情報館(6)と田島弥平旧宅案内所(7)であった。桑園では、富岡製糸場では「一ノ瀬」という品種、高山社情報館と田島弥平旧宅案内所では数種類の品種が植栽されていた。いずれも敷地の一部を使った小規模な桑園であった。

(4) 各資産との関係を表す展示

本世界遺産は、4つの構成資産が1つの生産システムとして機能的に結びついていることから、各資産の連携内容およびその展示状況の把握を目的に「各資産共通の内容」および「各資産に関係する内容」を調査した。「各資産共通の内容」とは、4資産もしくは対象資産を除く3資産の特徴を並記し、紹介する展示である。これは全ての資産および2施設において確認できた(表-2)。

また、「各資産に関係する内容」とは①資産の特徴をパネル、模型などにより詳しく解説している、もしくは②他資産との連携を示しているものとした。①については、富岡製糸場で各資産の模型を展示し、田島弥平旧宅および高山社跡の養蚕住宅の構造の仕組みや荒船風穴の蚕種貯蔵施設の構造が展示されている。また、大きな歴史年表を基に各資産の歴史的流れを示している。②では、高山社跡との住宅構造の比較を示す田島弥平旧宅の清涼育の説明が高山社情報館で展示されていた。一方、田島弥平旧宅では展示物に高山社跡の清涼育についての内容はなかった。最も特徴的だったのが下仁田町歴史館であり、富岡製糸場、高山社跡、田島弥平旧宅と蚕種貯蔵契約していた内容が展示されている。各資産の連携を裏付ける資料の展示は他資産にはない特徴である。

(5) 展示内容のまとめ

本世界遺産登録の評価基準となった基準(ii)国際交流と(iv)技術革新の展示状況は、資産では基準(iv)技術革新が、施設では基準(ii)国際交流が展示の中心となっていた。資産と施設は世界遺産評価基準(ii)(iv)の展示に対して相補的であるといえる。中でも富岡製糸場には多くの展示内容が集中し、展示を補完する施設は無い。富岡製糸場は東および西置繭所の2か所で展示可能であり、展示面積が他資産に比べて広いことが挙げられる。また、富岡市は富岡製糸場をまちづくりの核と位置づけており、多くの観光客が訪れるよう資産そのものの整備および整備事業に着手していることから、展示内容の充実を図っていると考えられる。

世界遺産登録時に削除された、基準(v)に関する桑園について展示しているのは4資産のうち富岡製糸場のみで、施設では高山社情報館および田島弥平旧宅案内所である。流通については、下仁田町歴史館および世界遺産を総括的に扱うセカイトであった。いずれも、世界遺産申請時に除外された基準(v)養蚕農家集落・桑園景観および流通について触れる資産・施設が限られていることがわかった。

高山社情報館を除く全ての資産・施設で、他の資産の紹介展示があった。これは4資産の繋がりを意識したものと考えられるが、それらを掘り下げることができる連携内容についての展示を表-2の「各資産に関係する内容」から判断すると、資産・施設の半数のみであり、展示内容の連携を意識しているとは言い切れない状況であった。その他の特徴的な内容として、荒船風穴を除く全ての資産・施設でぐんま絹遺産および日本遺産と関係のある展示が見られたが、中でも養蚕信仰は施設のみで展示されていた。

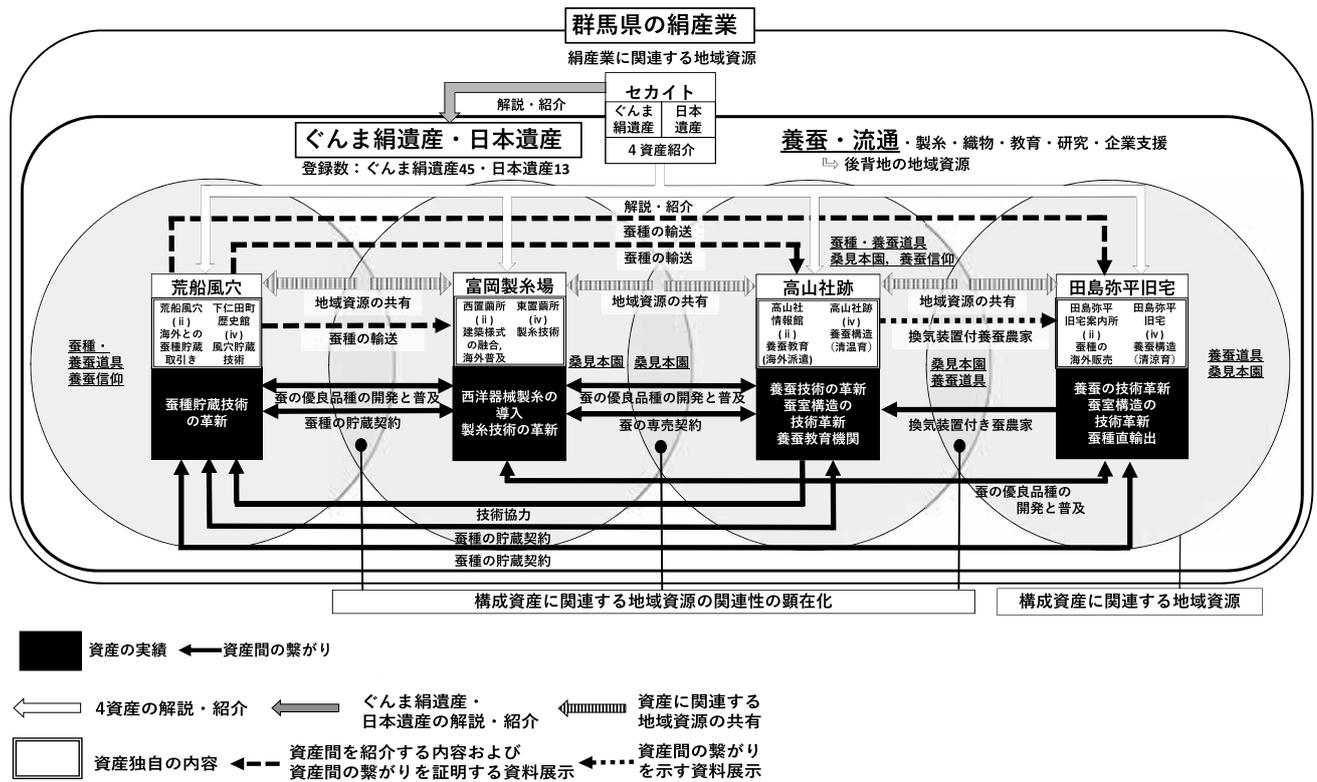


図-1 構成資産の連携(8)と構成資産に関する地域資源の関連性の顕在化

上記から、以下のようにまとめられる。①世界遺産認定の評価基準についての展示は資産と施設で別々に行われており、資産だけでは世界遺産認定についても十分理解しづらい、②資産全体像が捉えにくい状況が把握された、③世界遺産登録時に削除された養蚕農家集落・桑園景観および流通については扱っている資産・施設が少なく、認定の経緯や関連資産のもつ歴史的な意義を知ることができない、④資産・施設での展示に偏りがあり、特に資産の見学だけでは十分な情報が得られない、⑤世界遺産登録前後の経緯も含め、資産間の繋がりについて十分な情報を提供するには資産・施設間の展示連携に課題がある、⑥ぐんま絹遺産・日本遺産に関係する内容について1資産を除きすべての資産・施設で展示されており、後背地の特徴を掴みやすい。

5. 資産・施設間の展示連携についての考察

(1) 資産・施設間の展示連携

世界遺産各資産間の繋がりには図-1のように表せる。荒船風穴、高山社跡、田島弥平旧宅は蚕種の貯蔵契約を行い、高山社跡と田島弥平旧宅は、換気装置付き蚕種農家住宅という共通点がある。これらの資産間にかつて蚕の優良品種の開発と普及による繋がりがあったことが、富岡製糸場と絹産業遺産群の特徴といえる。

一方、表-2の資産・施設の展示内容を中心に、地域資源との関連を図にすると、各資産の評価基準(ii)(iv)を核として独自内容を形成し、他の資産と矢印で表した連携をとっていた(図-1)。各資産・施設は独自の展示内容を持ちつつも、資産間の「絹産業遺産群としての繋がり」に関する展示が少ない。資産間の繋がりを見る矢印を見ると、その差は歴然であり、資産間の展示連携についてはあまり意識されていない。また、表-2「ぐんま絹遺産・日本遺産に関する展示」の項目で資産間の共通した展示を見ると、①高山社跡-田島弥平旧宅間では養蚕道具と桑見本園、②富岡製糸場-高山社跡間では桑見本園、③荒船風穴-富岡製糸

場は無しであった。①～③の全てに共通する内容はなく、4（5）の結果のとおり、資産間の展示の偏りがあることがわかる。ぐんま絹遺産・日本遺産はともに「桑」を地域資源と捉えており、それをより活性化した場合、共通項として桑見本園の展示も行いうる。これにより、世界遺産登録基準（v）の桑園について補強だけでなく、世界遺産とぐんま絹遺産・日本遺産との連携もできる。また、地理的・歴史的意義を含んだ資産に関する地域資源の有効活用がなされ、資産を取り巻く地域の連携が可能になる。さらに、桑園ごとの栽培方法、品種等の相違点を明確に展示することによって、それぞれの資産をより深めることができる。

(2) 地域資源の共有

ここでは、構成資産に関連する地域資源の共有について考察する。特に田島弥平旧宅、高山社跡を例にとり「桑」および「流通」を取り上げる。

1) 桑園の共通点

栗原・篠沢（2020）は、明治期における田島弥平旧宅周辺の蚕種農家集落および桑園が利根川沿いに分布し（図-2）、利根川の氾濫と桑栽培に関連があり、洪水に強い根刈り仕立ての桑（根刈桑（10））が栽培されていたと述べている。一方、関口（2022）は、多野郡は利根川沿岸で盛んに蚕種製造する島村（田島弥平旧宅の存在する地域）にその自然環境条件は近似していると述べている。高山社2代目社長町田菊次郎が創設した高山社蚕業学校の周辺は鮎川、鐮川、神流川、烏川に囲まれており（図-3）、川の氾濫に苦しめられてきた地域でもあった。川の近くには、根刈桑を植栽するというのが利根川沿いの特徴であるが、明治35年における植付株数を見ると高山社および高山社蚕業学校のある多野郡は3,600株、田島弥平旧宅のある佐波郡は2,146株であった。また、桑園分布は、鮎川、鐮川、神流川、烏川周辺に集中していることがわかる（図-3）。以上から、川の氾濫から発生した根刈桑の存在が両地域から確認でき、地域資源の共通点として活用できる。

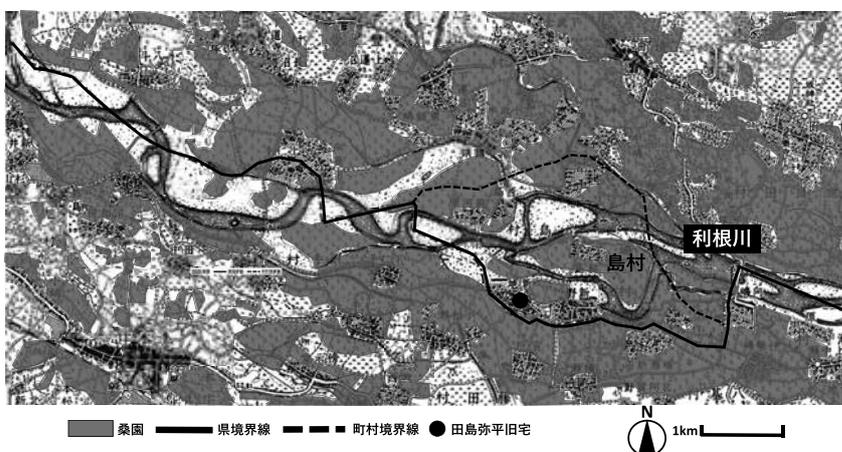


図-2 田島弥平旧宅周辺地域の桑園分布（9）

2) 流通の共通点

栗原・篠沢（2022）は、田島弥平旧宅周辺の桑苗の生産とその輸送について、桑苗を生産する桑園およびそれを運ぶ鉄道が存在していたことを明らかにしている。

一方、多野郡新町で生産された桑苗の輸送先は群馬、長野、愛知、静岡、岡山、四国であり高山社蚕業学校の近くにある新町駅（図-3）を利用

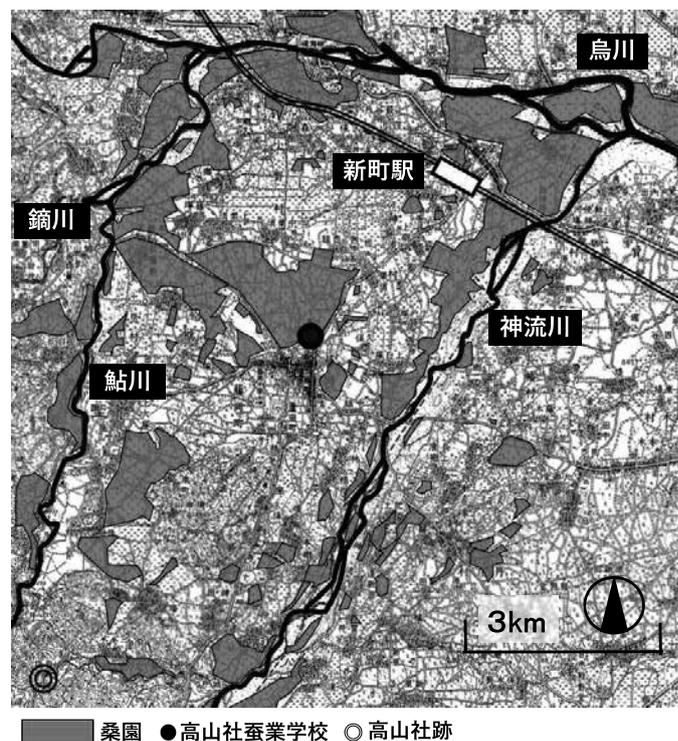


図-3 高山社周辺地域の桑園分布（11）

表-3 指導要領社会科の学習内容とそれに対応した教材・展示内容 (12)

学年	小学校教育指導要領社会科における歴史・地理的要素を含む学習内容		「内容の取り扱い」に出てくるワード (下線部分抜粋)	教材「わたしたちの伊勢崎市」で対応している内容	田島弥平旧宅および案内所の展示で対応している内容	桑園および流通の内容
	内容	内容の取り扱い				
3年	①身近な地域や市区町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。	市の位置	伊勢崎市の位置	—	—
			市の地形	伊勢崎市全体の土地の高さや広がり	鳥村絵図について	—
			市の土地利用	伊勢崎市全体の土地利用	—	桑園分布
			交通の広がり	伊勢崎市の交通の様子	—	桑流通 (鉄道)
			公共施設の場所と働き	伊勢崎市の公共施設	—	—
3年	②市の様子の移り変わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。	古くから残る建造物の分布	伊勢崎市の古くからある建物	田島弥平旧宅のしくみ	—
			交通の時期	交通のうつりかわり (鉄道・道路)	—	桑流通 (鉄道)
			公共施設の時期	公共施設の移り変わり	—	—
			土地利用の時期	土地の使われ方の移り変わり	—	桑園分布
			人口の時期	人口の移り変わり	—	—
4年	③都道府県の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。	県の位置	群馬県の市町村他	日本国内に与えた影響	—
			県全体の地形	群馬県の地形 他	利根川の変遷と島村	—
			県内の主な産業の分布	群馬県の土地利用の様子	—	桑園分布
			交通網	群馬県の交通の様子	アクセスマップ	桑流通 (鉄道)
			主な都市の位置	伊勢崎市の位置	—	—
4年	④自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。	過去に発生した地域の自然災害	群馬県内のさまざまな自然災害、伊勢崎市で起きた自然災害、伊勢崎市で起きた水害	利根川の変遷と島村	—
			関係機関の協力	国や自衛隊との協力	—	—
			その (災害から人々を守る活動の) 働きを考え、表現する	伊勢崎市での取り組み (ハザードマップ)、水害からくらしを守る取り組み	—	桑園と利根川氾濫
4年	⑤県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。	見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめる	田島弥平旧宅、富岡製糸場と絹産業遺産群、伊勢崎銘仙、伊勢崎市に残る古いもの	田島弥平旧宅のしくみ	桑栽培、桑流通
			特色ある地域の位置	片品村、津澤町、世界遺産の富岡製糸場、伊香保町、桐生市、高崎市の位置	富岡製糸場と絹産業遺産群 ※デジタルサイネージによる展示	—
			自然環境	尾瀬	—	—
			人々の活動や産業の歴史的背景	高崎 (だるま)	—	桑生産
4年	⑤県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人々の活動や産業の歴史的背景	人々の協力関係	太田市の様子 (国際交流)	—	—
			それら (県内の地域) の特色を考え、表現する	伊勢崎市と外国とのつながり	—	—

して鉄道で運ばれたと考えられ、両資産において桑苗の流通という共通点が浮かび上がってくる。これは「流通」という新たな展示内容を扱うことにも繋がる。

以上から田島弥平旧宅および高山社跡で共有できる地域資源があることが明らかになった。これらは、資産を取り巻く地域を意識した展示が可能であり、ぐんま絹遺産および日本遺産との連携の強化が見込める。

(3) 桑園・流通における教育教材としての展示に関する考察 ～田島弥平旧宅を中心に～

ここでは上記の共通点が小学校の学習活動でどのような位置づけになるかを学習指導要領に沿って見ていく。「富岡製糸場と絹産業遺産群」を学習する伊勢崎市の小学校3、4年生に絞り、田島弥平旧宅の展示について考察する。田島弥平旧宅および田島弥平旧宅案内所の展示内容を学習指導要領と照らし合わせたものが表-3である。

教材として扱われている「わたしたちの伊勢崎市」では、表-3「小学校教育指導要領社会科における歴史・地理的要素を含む学習内容」について、学習すべき内容の全てを網羅している。一方で、「田島弥平旧宅案内所を含む田島弥平旧宅の展示内容」は、それに対応している内容が少なく、特に「内容」②において対応している展示は皆無であった。そこで、桑園、流通を扱うことにより、世界遺産登録時に除外された桑園 (評価基準 (v)) および流通について補強が可能になる。これらは、学習指導要領に沿った展示内容の充実を図ることができるだけでなく、地域資源の共通点を意識した学習ができ、地域から見た世界遺産の学習展開が期待できる。また、ぐんま絹遺産および日本遺産に関連する学習にも繋がり、「群馬県の絹産業」についてもより深い学びになる。以上から、桑園・流通分野は教育教材として活用できる要素を含んでおり、展示の新規提案に値すると考えられる。

6. まとめ

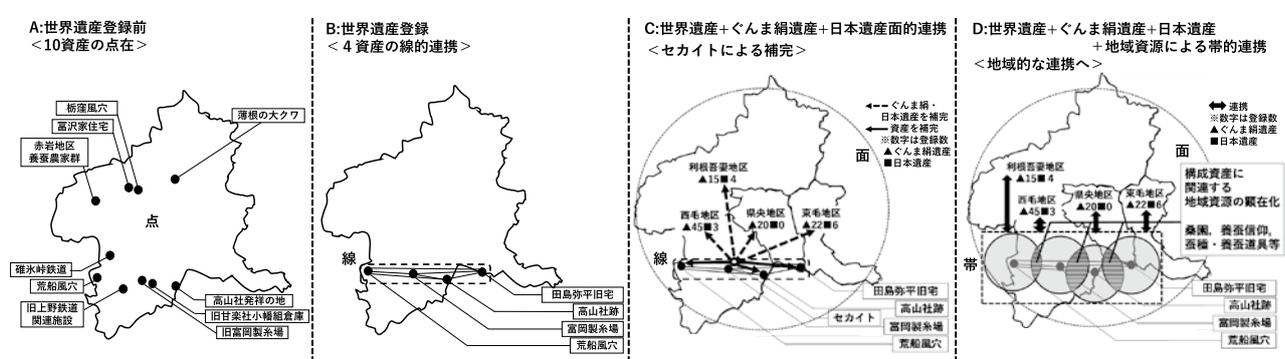


図-4 構成資産およびぐんま絹遺産・日本遺産との連携

本研究の結果と考察は以下のようにまとめられる (図-4)。

本研究では、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の各資産・施設の展示内容を把握し、各資産の展示の課題・連携の必要性を明らかにした。世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、登録以前は10資産がエントリーされ、「点」として存在していた (図-4A)。世界遺産登録時は、評価基準 (v)「養蚕農家集落・桑園景観」および「流通」など6資産が削除され、4資産の連携を軸に「線」的な繋がりを強調している (図-4B)。しかし、繋がりを示している資産の展示は、荒船風穴と高山社跡のみであり (図-1)、その繋がりを十分伝えられているとは言い切れない。

群馬県は、県全体の絹産業を「資源」とするため、「ぐんま絹遺産」および「日本遺産」の登録を開始したが、群馬全域の地域資源を掘り起こしたものの、その扱いは「点」的であった。その連携を持たせるため、各地に点在する資源および4資産を総合的に情報発信・解説する群馬世界遺産センター「セカイト」を開設し、構成資産およびぐんま絹遺産・日本遺産を補完し、群馬県の絹産業を「面」として捉えることに近づけている (図-4C)。

一方で、各資産・施設には後背地における養蚕信仰や蚕種・養蚕道具といった地域資源を生かした展示があり、それらの歴史・地理・民俗的背景を明らかに示していくことにより、資産間の養蚕文化の上での繋がりがより明確となる。また、隣接する資産相互の地域的共通性や差異も明確となり、他資産への理解も深化する。さらに、資産に関連する地域資源の関係性の顕在化による「帯」的な繋がりを見せることができる。これは、地域資源の共通性・関連性から、より深い「面」的展開へと発展し、ぐんま絹遺産および日本遺産との地域的な連携へと繋がることを期待できる (図-4D)。

本研究では田島弥平旧宅と高山社跡に関連する桑園・流通の共通点および教育教材としての活用についても考察したが、世界遺産の後背地における地域資源は、資産の総合的価値を高め、資産間の連携を強化し、地域を巻き込んだ新しい展示として活用が期待できる。これは、各資産およびぐんま絹遺産・日本遺産との関連付けも容易にし、資産の深い学びの提供を可能にする。このような新しい視点での展示は、地域教育、小学校の見学を伴う社会科の授業などへの積極的な活用に関わり、資産に深く触れる機会を増やし、地域に根差した資産の理解者の増加にも貢献できる。

本世界遺産は4つの資産が1つの生産システムとして機能的に結びついていることが最大の特徴であり、資産間の連携を意識した展示が「独自性」を引き出す武器となる。さらに資産に関連する地域資源を活かした教育教材の利用は、「地域に根差した」本世界遺産の理解者を育て、資産の永続的な維持・管理に力を発揮する。入場者減少が続く今日、それらの強みを理解したうえで、今後は群馬県全体の絹蚕業をさらに意識した、よりインパクトのある展示の在り方を議論していくことが必要になるであろう。

註

(1) 評価基準 (ii) 「建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである」、評価基準 (iv) 「歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、或いは景観を代表する顕著な見本である」、評価基準 (v) 「あるひとつの文化 (又は複数の文化) を特徴づけるような伝統的居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本である。又は、人類と環境とのふれあいを代表する顕著な見本である」

※本研究では基準 (ii) を国際交流、(iv) を技術革新、(v) を養蚕農家集落・桑園景観と便宜的に呼ぶ【出典：文化庁ホームページ：普遍的な価値

〈https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/bunkazai/sekaitokubetsu/shingi_kekka/betten.html〉 2023.

8.3 閲覧】

(2) 資産解説員への聞き取り調査による

(3) テリトリーオとは、共通の社会基盤を持ち、文化的アイデンティティを共有する地域であり、都市とその周辺に広がる田園や農村、あるいは海と山が一体となって有機的に結ばれる地域を指す【出典：日本建築学会 (2019)：建築雑誌2019年5月号 vol. 134 No. 1724、2-20】

(4) 群馬県企画部世界遺産課 (2015)：世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産登録記録集より作成

(5) 蚕種を貯蔵するための施設である荒船風穴蚕種貯蔵所を経営した庭野静太郎が養蚕飼育および蚕種を扱う「春秋館」も経営していた【出典：下仁田町教育委員会 (2017)：荒船風穴 (改訂版)、5-6】

(6) 高山社情報館の桑園は2023年の調査時点ではカミキリムシ被害で全滅していたが、今後同様に整備される予定とのことだった

(7) 田島弥平旧宅および田島弥平旧宅案内所の両所から数十m離れた位置に存在するが田島弥平旧宅の敷地内ではないため田島弥平旧宅案内所に付随するものとした

(8) 富岡製糸場と絹産業遺産群ホームページ 〈<https://worldheritage.pref.gunma.jp/tomikinu/>〉 を参考に筆者作成

(9) 地理院地図 (1/50000「高崎」明治40年測図、明治44年発行および「深谷」明治40年測図、明治43年発行) を参考に筆者作成

(10) 刈り取りが便利のように低木仕立てにした樹幹が地上50cmまでの桑

(11) 地理院地図 (1/50000「高崎」明治40年測図、明治44年発行) を参考に筆者作成

(12) 文部科学省『小学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説社会編』および『わたしたちの伊勢崎市第五版』を参考に筆者作成

引用文献

一般社団法人第一生命財団 (2016)：『city & life no.116 Mar-Jun 2016』 (一般社団法人第一生命財団・2016年)

かかあ天下 - ぐんまの絹物語 - ホームページ 〈<https://worldheritage.pref.gunma.jp/JH/>〉

栗原正博・篠沢健太「佐波郡利根川周辺地域における鉄道開通後の桑園の特徴について」『ランドスケープ研究』85 (5) (日本造園学会・2022年)

栗原正博・篠沢健太「明治期の利根川中流域における蚕種農家集落および桑園の分布状況とその特徴について」『ランドスケープ研究』83 (5) (日本造園学会・2020年)

ぐんま絹遺産ホームページ 〈<https://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan/>〉

群馬県企画部世界遺産課『世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群 世界遺産登録記録集』(群馬県・2015年)

群馬県企画部世界遺産課『平成26年度富岡製糸場と絹産業遺産群年報』(群馬県・2016年)

群馬県企画部世界遺産課『平成27年度富岡製糸場と絹産業遺産群年報』(群馬県・2017年)

群馬県地域創生部文化振興課『令和2年度富岡製糸場と絹産業遺産群年報』(群馬県・2022年)

群馬県内務部『群馬県蚕糸業現況調査書復刻版』(群馬地域文化振興会・原著発行1904年)

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟『世界遺産年報2015』No.20 (講談社・2014年)



下仁田町教育委員会：『荒船風穴（改訂版）』（下仁田町教育委員会・2017年）

下仁田町商工会ホームページ「下仁田町歴史館」〈<http://shoko.shimonita.jp/tourism/look/135>〉

上毛新聞記事「入場者38%増 富岡製糸場など群馬の世界遺産 コロナ和らぎ回復」〈<https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/264774>〉

関川誠・熊谷みのり『世界遺産富岡製糸場のすべて』（宝島社・2014年）

関口覚『養蚕改革・高山社の全貌』（関口覚・2022年）

田島弥平『続養蚕新論一 復刻版』（一般財団法人群馬地域文化振興会・2017年）

富岡製糸場と絹産業遺産群ホームページ 〈<https://worldheritage.pref.gunma.jp/tomikinu/>〉

日本建築学会：『建築雑誌2019年5月号 vol.134 No.1724』（日本建築学会・2019年）

原田雅純『ぐんまの鉄道』（みやま文庫・2015年）

文化庁ホームページ：普遍的な価値

〈https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/bunkazai/sekaitokubetsu/shingi_kekka/betten.html〉

丸山奈穂「世界遺産登録に対する住民の態度」『地域政策研究 第22巻第1号』（高崎経済大学地域政策学会・2019年）

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説社会編』（文部科学省・2018年）